

可決であります。予算特別委員長報告のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

鈴木良雄議長 起立全員であります。

よって、議案第39号は予算特別委員長報告のとおり決定いたしました。

日程第11 市政一般に関する質問

鈴木良雄議長 次に、日程第11、市政一般に関する質問を行います。

ここで申し上げますが、3月定例会は市議会の申し合わせにより、会派代表、政党代表、個人の順に質問を行うこととされております。なお、会派代表質問に限り関連質問を認めます。

質問の時間は答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

初めに、代表質問を行います。

それでは、順次指名をいたします。

大沼 久議員の質問

鈴木良雄議長 順位1番、議席番号13番、大沼久議員。

(13番大沼久議員登壇)(拍手)

13番 大沼 久議員 おはようございます。

3月定例会に当たり、新政会を代表いたしまして質問をいたします。

施政方針により、「改革・前進・全員参加」の基本方針で進めてこられた行財政改革の実施計画も、6年余の間で総負債額を386億円から348億円に、38億円、約10%減とされた。また、平成16年度の公債費は21億9,000万円であったが、平成17年度からは15億6,000万円程度となり、単

年度で6億3,000万円、約30%の減となる。

職員数については、400名から338名に削減していく予定を示され、62名、約15%の減員となり、人件費では29億6,000万円から24億8,000万円となり、4億8,000万円減じ、約16%の削減となっている。数字の上でも具体的成果となっており、これは県内でトップであり、全国でもトップクラスであると自負されております。

「協働・創造・未来の鼓動 実感“ながい”」の基本構想のもと、現状を見詰めたまちづくりを推進することとしており、国の三位一体の改革を体しながら、地方分権、地方主権を地方の立場から主張していく決意を言われております。地方分権、地方の確立に向けた目黒市政を評価できるものと考えます。

市政運営としましては、学校給食共同調理場の搬送業務から調理業務及び一部維持管理業務の委託により、2億円より1億1,000万円と9,000万円減じ、45%の減となったこと。はなぞの保育園の保育業務を社会福祉協議会へ移管されたこと。このことにより補助金の削減対応と雇用創出の効果を出し得ること。公務員制度改革が国で進まない中、庁内の給与制度改革プロジェクトチームの立ち上げによる、適切な職務職階制度の導入による給与制度改革に踏み切られたこと。さらに、民間委託へと推進することへの方向性を示されました。

また具体的には、長井ダム周辺環境整備では、単なるスキー場や施設整備だけではなく、コミュニティセンターとしてオールシーズン多機能を持たせること。ここには、散歩や孫の子守をする人たちが自由にいつでも使える施設にするということを考えてみてはいかがでしょうかと思います。

最上川フットパス構想では、川と水を中心とした一体的構想の実現へと大いに市民参加を求められたものと考えます。全市的発想でつつじ公園、あやめ公園等も含めて検討することを希望したいものであります。

その他の施策にも17年度の予算編成の気配りが見え、よくやっているという実感を受けたところであります。伊佐沢地区の公民館建設へも一歩踏み込んでもらい、久保ザクラの保護にも、手厚くしてもらったというわけではありませんが、ほぼ納得のいく施政方針と思えるところがあります。

行財政改革とは、つまり行財政構造改革の実践であり、行政コストの低減であると思います。それは、行政の予算の単年度主義の弊害を正すこと、収支均衡、年度内使い切りを制度で改められないなら、意識として年次計画を持つことに改め事業の継続を考えること。各係ごとの予算の配分硬直化をなくすこと。一律何%削減せよという方針が出ると、その事業内容の継続性へ配慮を欠いてしまっており、それが事業運営の欠陥になる。また、行政コスト、つまりすべての物品及び工事代金等も、それぞれ単価の徹底した見直しを行いコストダウンに努めること。このようなことが各自治体でもいろんな試みの中で始まっております。

愛知県高浜市では、いろんな事業をほとんど役所からアウトソーシング（外部委託）の会社へ移し、市の職員は企画・立案に専念する。その結果、雇用が2倍にふえ、しかもこの会社、全額市が出資であります。黒字であり、天下りは、言葉は悪いんですが、総務部長1人。市の財政そのものはこれまで数億円の金が浮いたことになり、それをやらなかったらこれだけの高コストで推移し、事業が停滞した。

また、長野県の栄村では、過去10年間の道路工事を国や県からの補助金を一銭ももらわずにやり、その結果、国がやった場合に比べて6分の1のコストでできたそうです。

高浜市の森市長の自治体経営、七つの方針というのがまちづくりの基本とされることですが、職員の意識改革の推進、顧客としての市民へのあいさつの徹底、行政の行動規範の作成、「おは

ようございます」「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」。

2番目に人材の育成。組織をフラット化する、平準化するということです。職員の勤務評定は、上司・部下とも対象としてやる。

低コスト化とアウトソーシングの推進。勤勉手当に成績率を導入。管理職、主任、主査は10%。業務の目標管理の徹底。課業考課表（業務の難易度と到達度）による人事管理等を徹底する。

オンリーワンのまちづくりに徹する。高齢者福祉における施策に代表される、ナンバーワンでなくてもよい、地域に根差す特徴ある施策展開をとの発想。

市民と協働するまちづくり。パブリックコメントと市民参画を前面に、行政はあくまでも黒字に徹する。

特色ある条例の制定によるセーフティーネットの構築。常設型住民投票の条例。居住福祉のまちづくり条例。ともすれば、障害者、高齢者に偏りがちな視点を改め、自助・共助・公助での協働のまちづくりを推進する。

受益と負担のバランスを考え、持続可能な行政運営を目指すためには、身の丈に合った行政運営を実践。しゅんな施策を実行していくためには、リスクをとって……、とるということは、リスクをもって実行を恐れるなど。リスクで実行できないということをするなどというようなことで言われております。

何か目黒市長とオーバーラップしないわけでもありませんが、あくまでもナンバーワンではなくオンリーワンを目指す姿勢であると言えます。

そして、高浜市の行政改革の推移を見てみますと、最初に行政改革大綱を策定し、定員管理の適正化、定年退職者不補充、公共施設の管理運営の委託ということを推進して事業を進められたそうですが、ここで行政の事務は正職員でなくてもできる仕事も多いと認識をされ、そし

てその仕事を担う臨時職員にあっては、地方公務員法により6カ月という採用制限があり長期採用ができないことなどもあって、施設を管理協会の方へ移行する方策がとられた。そしてその中で順次、財団法人としての制約が多いことから、平成6年度から株式会社設立となった。そうすることによって利潤の追求をできる事業展開がされ、利益を市に還元できたり、そのことによってサービスが向上される。それから、地方公務員法にとらわれない人の採用ができる。多角的事業が展開できる等々が言われており、高浜市総合サービス株式会社として現在運営されて効果を上げているということであります。

あくまでもスリムな自治体を目指すためには民間委託ということではありますが、どうも官業・民業という感覚の差が大きく、このことがなかなかなじまないものになっている。とりわけ高浜市の民間委託の状況を見るとあくまでも業務の委託であり、アウトソーシング、外部委託であり、外注策である。このようにとらえながら、多岐にわたる部門への展開を図られている。このことをもとにしながら、起業、事業を起こすこと、就労、就職すること、いわゆるビジネス創設へのもとなる。そして地域経済への波及効果は果てしなくある、このように言われております。

この点で、このようなことを考えながらの民間委託に対する市民感情をどのように今後なされるか、市長、いかがでしょうか。ご意見を伺いたいと思います。

今回の施政方針で触れられ方が弱いように思える福祉施策と少子化対応についてですが、ことしは豪雪で特に思ったわけでありませうけれども、いわゆる序口の除雪の大変さでありました。連日2時間ほどやっておりましたが、なかなかうまくいきませんでした。そんなときに考えたら、隣の老人世帯の方も時々休まれておりました。こんなときに事が起きたら大変だなと思

まして、除雪機や消防車、救急車等が出入りできる整備の緊急性を思ったところであります。このことを、さきに申し上げた栄村のようにそれぞれ独自にそのことに合った整備が何かできないものか。これは福祉と一体になってやればどうか、このようなことを思ったところであります。

そこで、長井市においても以前、私道整備補助事業があったそうですが、利用実態から廃止になったと聞いております。しかし、これは何が問題があったかももう一度検証をして、この辺を立ち上げていくことを切にお願いするものであります。このことについて市長のご所見をお伺いいたします。

少子化対応についてであります。現実的な問題として、16年度の伊佐沢地区において生まれた子供が1名だそうであります。年度末まであと幾日もありませんが、まだ可能性のあることを聞いたことはございません。そしてその子供も、他地区で生まれて実家に入られた方だと聞いております。

少子化が地域をだめにする、叫ばれて久しいわけでありませうが、結婚がなければこれは恵まれないわけでありませうが、周りを見ても、自分のところを見ても、自分の適齢になった息子も適齢をとうに過ぎていた弟も結婚をしていません。そして自分の結婚を考えてみますと、以前から知ってはいましたが、いわば地産地消でありましたが、最終的には職場でということの結果になりました。それも、今はやりの長男・長女の組み合わせでございます。

みずからのことを考えながら周りも考えてみますと、やはり職場での出会い、職場を通しての出会い、このことが最も多く結婚へのプロセスだと思います。そんなことから、何があっても産業の振興と若者定住を図ることが大切であると思います。官業とか民業とかとられることなく、地域課題解決のために、それこそ全員参

加でやるうではありませんか。このことについて対案はございませんが、市長がどのようにお考えかお伺いをいたすものであります。

最近の市長の言動には、ナンバーワンを目指しているような気がしてなりません。やはりここは謙虚にオンリーワンを目指し、地域のため、そのことを全力で頑張っていたきたいと思えます。差し当たっては、いろいろなことはできないと思えますが、まず自分の、みずからの職場の机の回りの掃除ぐらいは自分でやるうではありませんか。このことをやりながらじっくりと考え、今後の方針を考えるのが一番私は大切なことだと思えます。

以上、るる申し上げましたが、以上をもちまして壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 大沼議員のご質問とご提言にお答えをしながら、私の考えも申し上げたいと思えます。

まず、道照寺平コミュニティセンターと市民の方がいつでもだれでも気軽に利用できるというご提言であります。そのとおりだと思っております。そういった配慮をしながら今後この道照寺平もフルに皆さんから使っていただけるように意を用いていかなければいけないというふうに思えます。

予算等につきましてご提言がございました。ご提言を受けとめて、優先順位をしっかりと決めながら、選択と集中で一つずつやはり実現できるように配慮をしていきたいというふうに思っております。

そこで、高浜市あるいは長野県栄村等での成功例についてお話をいただきました。私も高浜市は改革派サミットでもお会いしたことがありますし、本等でも勉強させていただきました。行ってみたいなと思っているところであります。特に民間の皆さんに福祉等をアウトソーシ

ングされていると。福祉の業務をですね。株式会社というのが長井市になじむかどうか。NPO等に委託する方が私は、今やらせていただいているわけですが、高浜市のやはり株式会社等総合サービスをつくりながらいろんな面でアウトソーシングをしておられるということについて、私もぜひもっと勉強してみたいと思っております。

福祉等につきまして、福祉事務所長にも申し上げたことがあります。もう少し詳しく勉強してみようというふうに申し上げました。

長野県の栄村等もそうでありましょう。やはり補助金をもらってやるということになると、どうしてもグレードが立派なものになってしまうと。むしろそうでない場合もあり得るというようなことも、これは考えていきたいというふうに思っております。

やはり民間委託は、民間の皆さんに雇用をつくり出す、働く場を提供できると。それから行政自身もスリムになっていくという意味で、この両方のメリットがあると思っておりますし、これはしっかりともしっかりとできるものがないかということは考えながら、一つずつやはり実践していかなければいけないというふうに思っているところであります。

福祉等につきまして、施政方針に少しなかったというご指摘もいただきました。おっしゃるとおりでありまして、ちょっと施政方針が長過ぎたというご批判もありますので、若干はしゃった分があって言い足らずのところになったわけではありますが、福祉、教育、環境、文化、こういったソフト面にしっかりと対応していく、そしてそれはそれぞれにやはり全国のトップクラスを目指していくという気持ちには変わりはありません。

除雪等についても、ことしはなかなか雪が消えない。一般的に言うところ大雪だったわけですが、比較的皆さんからも頑張っていたら、

あるいは我慢していただき、苦情等も少なかったように思います。ぜひ今後ともしっかりと、福祉的な側面もあると思いますし、特に高齢者の皆さんだけの住まい、あるいはひとり暮らし等に配慮をしながら頑張っていかなければいけないというふうに思います。

ご指摘の歩道整備ですか。歩道整備につきましては、なおやはり通学路なり歩く皆さんについて、特に雪の問題のときにご指摘を受けますので、具体的な場所等も教えていただきながらしっかりと対応していきたいというふうに思っております。

少子化につきまして、私もこれは大変だなというふうに思っております。大沼議員が申されるように、即効性のある対案というのはちょっとないのかもしれませんが。私がヨーロッパ等も、ドイツとフランス等も行かせていただいた感じでいうと、やはり女性の皆さんも高学歴になって社会でお働きになるということになると、ドイツ等もやはり1.6ぐらいかな、ということではなかなか晩婚化が進み子供の数が少ないという面では問題があるというふうに思われておりました。先進国なべてそうだと思います。

しかしそれだけではなくて、子育てについてもっとやはり具体的に応援できるものは何かということ、これも一つずつやっていくことが私は今のまず具体的な少子化対策なのではないかというふうに思っているところであります。

決してナンバーワンを目指しているわけではありません。気持ちとしてはもちろんナンバーワンでありますし、謙虚にやっていきたいと思っております。どうもやはり態度がでかいというか声大きいというか、そういうところをご批判もありますので、これまた謙虚にやらせていただきたいと思っているところであります。以上です。

鈴木良雄議長 13番、大沼久議員。

13番大沼 久議員 答弁いただいたんですが、

一つは、除雪の件でのお願いもしたんですが、そうでなくて、なかなか機械も入れられない、そういう序口があるから、その序口の整備について、せめて救急車、消防車ぐらいは通行できる幅員を持ちながら常時それは使えるようにされるものを必要だと、そうすれば除雪も楽だろうと、こういう発想でございますので、その辺は誤解のようにしていただきたいと、そのように思います。

それともう一つは、少子化対応策でありますけれども、これも結婚相談員制度があったり結婚資金の貸付制度があったり、今までそういうこともやっていたんですが、時代の趨勢に合わないということで、利用者がいないということでこれも4年前ぐらいから廃止になっております。

したがって、そういう点で見ますと、現在、市中の企業に勤められている方で結婚資金を例えば銀行あたりに申し込みに行きますと、まずもってないわけですね、貸すということは。金利安い、安いって皆さんおっしゃいますけれども、いざ若い人が結婚資金を借りたいといって銀行で受け付けてくれるかということ、決してそうではないのが実態だと思います。

したがって、こういうものの具体的な相談を行政当局はやるべきだと。そして結婚を促進されるようにすべきだと。それから、まちの産業の活性化がないと若者はどうしても定住しないから、若者定住のためにはそのアウトソーシングをされたビジネスをうまく利用してできないかと。こういうことを結びつけて言ったはずですけども、なかなか言葉が通じなかったような気がします。

そんなことから、ひとつその辺のことについて市長のご所見をもう一度伺いたいし、最後に言った、庁内の掃除ぐらいは職員でやろうということをもっと提案していきたいものですから、その件についても話を伺いたいと思いま

す。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 ご指摘の、例えば結婚相談ですね。これは今、結婚式に私もお呼ばれをしますがほとんどが人前結婚でありまして、いわゆる仲人というかそういうではなくなったような気がいたします。若い皆さんがそれぞれみずから伴侶を自由に求めるということは、それはそれでやはり時代の趨勢かなというふうに思いますので、その辺はご理解をいただきたいと思えます。

結婚資金等については、具体的なご相談等がありましたら、それは丁寧に対応するように窓口等で取り計らってまいりたいというふうに思います。

庁内の清掃等につきましても、そろそろやはり再検討すべき時期かなというふうに私も思います。検討してみたいというふうに思います。

(「序口」の声あり)

目黒栄樹市長 序口ね。序口は私のところも非常に長くて玄関に入るときに困っているんですが、しかしなかなかやはり序口の入り口あたりを、何か除雪のところに少し、あそこにたまらないように配慮していただくとかいうようなところはしなければいけませんけれども、やはり序口の奥の方はみずからの私有地ですのでみずからでということになるのではないかなというふうに思っております。入り口等についてなおやはり雪を余り置かないような、そういう配慮を具体的にして、除雪をしていただく方に求めていくということなのではないかというふうに思っています。

鈴木良雄議長 13番、大沼久議員。

13番大沼 久議員 ちょっとそれ、今のちょっと違うんですが、私が言ったのは、前の私道整備補助事業については、この先に何軒あることとか、それから何ほの幅員でつくらないとだめだぞとか、工事費が200万以上だと3分の1し

か出ないとか、いろんな規定があったんです。したがって、今風にこれ合わないから、1軒のひとり住まいのうちでもいいから、車だけ通れるように舗装なんかしなくてもいいから幅員を広げたいとか、そういうときに具体的に相談に乗っていただきながら、せめて家の前に救急車来ないなんていうことのないように、これからそれぞれの地域で考えられてはどうかということでご提案申し上げたことでありますので、その辺はちょっと。除雪するだけで大変だなんておれ言ったものだから。私の家の序口は長くて150メートルぐらいありますのでそれは個人の責任だと思ってやりますけれども、ただ、どうしても隣のうちの人とかだれかの土地を通らなければいけなくて自分ができない人については、行政の方が具体的に相談に乗りながらその確保をやってほしいと、こういうお願いでありますので誤解のないようお願いしたいと思います。

それから掃除の件についてなんですが、自分の周りは自分で掃除するのは当たり前前で、就業時間の始まる前に来てきれいにして仕事するのは、これは仕事の常道だと思うんです。それが、だれかがやってくれるということで、机の上には書類出し放題、机の中は恐らく私物いっぱい、これではいけないと思うんです。したがって、そういうことのないように毎日自分の職場は自分で掃除するとこういう気配りをすれば、仕事にかかる心意気も違うと思うんです。これは金のかかることじゃありませんから。むしろ経費節減になるんじゃないですか。この辺についてもう一度お願いします。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 自分の身の周りは自分でということについては、趣旨は大賛成であります。具体的に名前を上げて恐縮ですが、総務課長なんかはもう1時間前に来て、自分の周りを整理して机等もきれいにして、そして、何ていうんですか、気持ちよく仕事をスタートできるように

意を配っておられるというふうに見受けられません。

関係課長等も率先してやりながら、もちろん職員は自分の周辺、それから机の上、そう言いながら私もいろいろ書類がありまして余り格好いいことは言えませんが、そういうご指摘の自分の回りをきれいにするというのでやっていかせるように、なお徹底を図りたいと思います。

鈴木良雄議長 13番、大沼久議員。

13番大沼 久議員 まあいいでしょうけれども、それから序口言わないんだから、これは困ったなと思って。

これ何で迫りたいかという、伊佐沢だけじゃないのね。町内なんて行ったらもう裏道の散歩道、大変いいことおっしゃりませうけれども、実際救急車も入れないような路地いっぱいあるんじゃないですか。成田なんかも大変ひどいですよ。そういうときに、高福祉を訴えるならば、そしてことあたりからの方針で、寝たきりをなくそう、それから要介護をなくそうということでいろいろ、前段の訓練だ、トレーニングだ言っていますけれども、いざ自宅にいる方はなかなかそういう場面にも恵まれず、事あれになったらもう、それこそ間に合わないという状況あるかと思しますので、やはりこれは年次計画を持ちながら真剣に、各家庭でも全部救急車が入ってこれると、それが何軒かまとめても結構だと思しますので、ひとつそういう施策を骨に入れていただきたい。

そして、その福祉のときに金が他のことでかかるならば、それはアウトソーシングすればいいんじゃないか、こういうふうにご検討しておりますので、頼むことは頼みながらも行政でどうしても担わなければいけないものは、やはり長期計画の中でもそれを確立していくということの重要性だと思っております。だから、その辺をもう少しお伺いいたします。

またもう一つ、こだわるようで申しわけないんですが、結婚なんです、これもやはり出会いがないと結婚なんかできないんですね。無人島にいたら結婚なんかできないわけですから。したがって、今「うちにいる」なんて言われてもなかなかうちにも経済活動をしなければいけない状態がありますので、経済活動ができるような対策を真剣にご検討いただきたい。

とりわけ、私ごとで恐縮なんです、うちのせがれは第1回目マルコン電子のリストラのときに入社です。そして今回、下がないときに転業です。こんなことから切実に感じていることは、やはりこうなるときに行政として何か相談されたときにやはり対応ができるセクションがあるということをおっしゃるものですから、結婚相談とか生活窓口を、勤労センターの方に全部やっているとかそういうことではなくて、庁内できちっと対応していただいて、各企業間との連携とかそういうものを密にしなければなどということをお考えだったので、その点についてももう1回お願いします。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 私道の整備、私（わたくし）道の話ですね。

私道の話等につきましては、それは、特に町中なんかで奥に入って行って何軒か救急車も入れないというようなところがあるとすれば、それはやはり対応していかなければいけないというふうにおっしゃるし、なお、具体的なお話を教えていただきながら具体的に検討をさせていただきます。

出会いの場は、商工会議所なんか時々やっておりますね。民間はOMCとかいろいろやっております。これは行政が直接やるというよりは、やはりそういった意味で民間の皆さんと協力しながらやっていくというようなことだと思っておりますので、そういったこと、出会いの場づくりなんかはこれは一つの事業として

検討させていただきたいと思います。

鈴木良雄議長 13番、大沼久議員。

13番大沼久議員 これですけれども、市長にお願いしたいのは、今いろんなところで民間委託等々を進める場合において、少し説明に短兵急なような気がしてならないんですね。したがって、計画はもうできていると思いますが、市民の皆さんに説明をされるプロセスが大事だと思うんです。

したがって、今回ののはなぞの問題にしても、自治体の施設を簡単に個人には貸せないとか払い下げをしてはならないとか、いろいろ縛りがあるわけです。そういうところの縛りを、やはりもう少し市民の方に説明する義務があるのではないかと。したがって、行政が行う施策において説明責任というものを全体的にもう少ししていく必要があるということから、私は高浜市などの経過を申し上げたつもりでありますけれども、そういうものをもっと広範に市民に開放するというのをやっていただきたいということを要望しながら私の質問を終わらせていただきます。

鈴木武次議員の質問

鈴木良雄議長 次に、順位2番、議席番号16番、鈴木武次議員。

(16番鈴木武次議員登壇)(拍手)

16番 鈴木武次議員 おはようございます。

長井市の行政能力の向上を願い、豊かさと活力に満ちたまちづくり施策の実現を目指し、政和会を代表して私が質問をさせていただくことになりました。よろしくお願いを申し上げます。

施政方針をお聞きして感じましたことを申し上げますが、総負債額を減じ多少の夢を語る現状は、市民にも評価していただけるものと思

います。これからも市長は聖域のない改革で市政運営に当たられる姿勢がうかがえますが、市民の声を十分に聞き、庶民的姿勢を念頭に、過ちのない「改革・前進・全員参加」を基本に、常識を範として、不言実行で元気な長井になれるよう努力をしてほしいと施政方針をお聞きして感じたところでございます。

通告してあります市町村合併についてお伺いいたしますが、昨年までの市長は、合併は避けて通れぬ政治課題と言いつつ、米沢や南陽等を枠組みに悔いなき合併を目指し精力的に行動をなされましたが、いずれとも思いはかなわず合併の芽は消え、今は静かにしておられるようですが、市長は自主・自立に腹を据えられたのか。施政方針では一言も合併に触れておりませんが、西置賜を枠としての合併を市長はどのようにお考えになりますかをお伺いいたします。

次に、「おもてなしの心」の観光事業についてお伺いをいたします。

長井市の観光事業は「水と緑と花」を標榜し、多彩に繰り広げていただく祭りは、長い間、協会役員のボランティアに頼り今日まできた経過に対し、市は感謝をしなければならないと思います。

先ごろ長井市が協会に対し事務体制の見直しと事務所移転を伝え双方で話し合ったが、折り合いがついていない状況であると伺います。観光シーズンを目前にして、「おもてなしの心」、おもてなしの観光に支障はないのか、市の対応と協会の体制について市長はどのようにとらえておられるのかをお伺いをいたします。

最後になります。用地特別会計の範囲でお伺いをいたします。

長井市が土地開発公社健全化対策で国の特例措置を受けて今年で5年、特例措置最後の年と思いますが、今までも何件かは土地開発公社が塩漬けした土地を市が買い取ってきた経過があると思います。だが、特別会計などを起こされ